

やぶ医者と過疎地医療

医療法人慈孝会 七山診療所 所長
一般社団法人唐津東松浦医師会 理事
阿部智介



旧七山村

過疎化が進む典型的な中山間地

- 人口；1,756人（R6.4月）
- 産業；農業，林業
- 面積；62.89km²
- 高齢化率；46.6%
- 生産年齢人口率；42.7%

過疎化

さまざまな負の側面

- 高齢独居世帯の増加
- 老老介護の常態化
- 認知症患者の増加
- 世帯収入の減少
- 生活難民の増加
- 若い世代の流出
- 医療や介護の継続難



その人を知ることの大切さ

生活背景と地域を知る



A black and white photograph showing two men. On the left is a younger man with a shaved head and a goatee, wearing a white lab coat over a dark t-shirt. He has his right arm around the shoulder of an elderly man on the right. The elderly man has thinning hair and a serious expression. They are sitting in front of a window with a dark frame. The overall mood is somber and intimate.

医療は生活の一部でありすべてではない
生活を支えてこそその医療

過疎地で生きるための 三つの自立

- **身体的自立**

健診受診率向上、予防教育、健康寿命の延伸

- **経済的自立**

医療費用や介護費用の抑制、労働期間の延長
収入の確保

- **精神的自立**

自己の尊厳、レジリエンスの強化



東奔西走

- 巡回診療は行政と協議の上で行っている医療体制
- そこに医療が必要なのであれば応える
- 七山の池原地区と肥前町の納所地区で実施
- 極力、在宅医療に移行せずに負担軽減

気になるなら動く

- 地域に一つしかない診療所の役割
- 足のない高齢者に対しては自分が動くだけのこと
- 生活環境を知っているからこそ、気になるなら動く
- やらないで後悔するより、やって後悔するほうがいい





知らなきゃ
何も始まらない

- 過疎が進む中で重要なのは可能な限りの自立
- 予防は知ることから始まる
- 知る機会としての巡回寺子屋



NANAYAMA CLINIC

医療法人 慈孝会

七山診療所



ななまる歯科クリニック

NANAMARU DENTAL CLINIC



インフラ集約による拠点へ

- ・ 医科、歯科、薬科と行政機能を統合
- ・ インフラ集約することで災害時の拠点にもなる
- ・ 長期ビジョンを示して行政に関わり続ける

最期まで先生に
診てもらいたかあ



- 慣れ親しんだ在宅医療の環境
- 在宅医療は地域医療の一つ
- 在宅医療は自分らしく最期まで生ききるためには必然のことであり特別なことではない
- 無いなら無いなりにできることはある
- 患者や家族の強い思いと覚悟があればやれないことはない
- その覚悟を己の覚悟として向き合う

A close-up, low-angle shot of a man leaning over a woman lying in bed. The man's face is partially visible in the foreground, looking down at the woman. The woman is lying on her back, looking up at the man. The scene is dimly lit, creating a intimate and tender atmosphere. The background shows a patterned bedsheet and a wooden headboard.

いのちの物語を共につづる
唯一無二の人生に関わる意味



多職種連携に上下はない

お互いに専門職として尊重し補完し支え合うもの



家に帰ろう
仲間と共に

在宅医療・介護連携

- 地域包括ケアシステム構築の
カギを握る在宅医療・介護
連携推進事業
- 医師会担当理事として多職
種及び行政の仲間とチーム
として事業展開
- 多職種連携から同職種連携
への深化
- 急性期から回復期そして在
宅への連携強化
- 住民が最期まで自分らしく
生きることが出来る地域
づくり

住民が安心して暮らせる地域へ

唐津市・玄海町

いきかたノート®

～生きかた・活きかた・逝きかた～



名 前 _____

生年月日 _____



唐津市 玄海町



いきかたノートとは



皆さんは、自分の人生について考えられたことがありますか？

人は、生まれてから逝くまでの時間を、様々な人とかがわりあいながら、人生というかけがえない物語としてつづっていきます。そこには、楽しいことや嬉しいこと、苦しいことや悲しいこと、様々なことが含まれるでしょう。

自らの歩んできた道を振り返りながら、今の自分を見つめなおし、そしてこれからの人生をどう歩んでいくのか。そのようなことを考え、大切な人と語り合うことで、自分自身が活かされ、そして自分らしく最期まで生きていくことができるためのきっかけとなるように「いきかたノート」があります。

唐津市・玄海町は市街地や山間部、沿岸部、離島と様々な地域を有するところです。同じ地域であっても、人口が減るところもあれば増えるところもある。住民全員が同じ環境や望む環境で生きることが難しいのかもしれませんが。

しかし、環境は違えども、それぞれが大切にしている想いがあります。その想いを知ることで、皆さんにかかわる人がその想いを支え、人生の物語を共につづり、より良い生きかたへとつながっていくことができる可能性があります。

これから先も安心して暮らせる地域であるためにも、「いきかたノート」を活用していただければ幸いです。



生きかた・活きかた・逝きかた

それぞれの生きかたがあり 社会の中での活きかたがあり それが最期の逝きかたへとつながる

やぶ医者となる





持続可能な 過疎地医療を





人生の伴走者であり伴奏者であれ

最期まで自分らしく生きることができる地域であるために